



同好会ひろば

第279号
R2. 1. 10
No.5

今年度の研究成果を発表します！小中合同部会研究発表会

今年度、研究部会では、「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科学習—新学習指導要領を見据えた教材開発—」を研究主題とし、新たに学習する内容や既存の学習内容についての教材開発に焦点を当て、実践を進めてきました。研究発表会では、主体的・対話的で深い学びを実現するための教材化の工夫について、具体的な授業イメージをもったり、授業づくりのノウハウを学んだりすることができるよう、研究のまとめを分かりやすく発表します。同好会の研究に関心がある方、社会科の授業づくりで悩んでいる方など、ぜひご参加ください。

【日時・場所】 1月14日（火）19：00～ 中小企業振興会館

今年度最終回！第4回授業づくり講座

「社会科の授業の進め方が知りたい！」「授業をもっと楽しくしたい！」そんな先生方の悩みを解決し、授業づくりに対する力量向上を目指して開催している授業づくり講座も、いよいよ最終回となります。どの回も、「すぐに授業で使える工夫が知れてよかった」「授業づくりの悩みが解決した」などと大変好評でした。今年度の授業づくり講座も「わくわく！子どもが目を輝かせる社会科の授業づくり」をテーマに、すぐに生かせる具体的なアイデアを学ぶことができるようにしています。会員の皆様はもちろんのこと、同じ学校の先生方にも声を掛けていただき、奮ってご参加ください。

【日時・場所】 1月24日（金）19：00～ 愛知県スポーツ会館

【内容】 小学校と中学校に分かれ、講師の先生方がアイデアを紹介します。
小学校「新内容・新教材を意識した社会科の授業づくり」
中学校「みんなで考えよう、学習課題！」

【第279号 紙面】

| | |
|----------------------------|--------|
| 小中合同部会研究発表会・第4回授業づくり講座について | （p1） |
| 訪問インタビュー（西淵茂男先生） | （p2、3） |
| 11月小学校部会報告・中学校部会報告 | （p4） |
| 第3回授業づくり講座の様子 | （p5） |
| 授業力アップ研修グループの様子・今後の予定 | （p6） |

西淵 茂男 先生

指導室指導主事、教職員課管理主事を務められ、学校教育部長、教育次長を歴任され、名古屋市の教育行政に長く携われた西淵茂男先生。先生の豊富なご経験を基に、今後の同好会活動を充実させていくための貴重なお話を伺いました。



<経歴>

昭和55年、名古屋市立大杉小学校に着任。以降、宮根小、守山小、幅下小を経て、瀬古小校長に。その後、指導室指導主事、教職員課管理主事を務められ、学校教育部長、教育次長を歴任されました。

社会科同好会では、事務局員を、社会科研究会では、役員を務められました。

現在は、愛知教育大学理事兼副学長・名古屋市教育委員として活躍されています。

愛知教育大学での仕事について

愛知教育大学理事兼副学長として、大学の経営を担っています。教員を養成する大学として、「学校教育をよくするには、よい先生を育てる」という考えをもって取り組んでいます。名古屋市だけでなく、県や他の市町村に関わることで、教育を見る目が広がったと感じています。

少子化の影響で、大学の定員が見直される時期がきています。それに伴い教育実習生の数も見直されていきます。改革の時期が来ていますが、「よい先生を育てる」ことを本筋に務めたいと思います。

大学では、免許状更新講習の統括も行っています。教員養成に加え、現職の先生の研修も請け負うことも大切にしています。そのために、愛知教育大学では、現場経験がある大学教員を20%にすることを目標にしています。

現在の教育現場に思うことは

全国的に年間で、一割ずつ程度、教員を希望する学生が減っています。長時間労働が問題になっていたり、一般企業に就職しやすくなっていたりすることが原因だと思います。

今、必要なことは教育に携わることの魅力を伝えていくことです。これは、現場の先生が伝えていくしかありません。特に保護者に伝えていくべきだと考えます。保護者は、先生方に感謝していても、学校や教員のよさを発信していくまでには、なかなかいかなので、吹聴してほしいと伝えていくことが大切です。

そのために、ホームページや学校だより、学年だよりを活用することができます。私も、校長を務めているときに、子どもたちの様子を学校だよりに載せました。学校が子どもたちの様子をよく見ていることが保護者に伝われば、保護者の学校への信頼も厚く

なります。発信を続けて、好循環をつくることで、保護者の見方が変わってくると思います。

現状では、教員の努力がまだまだ伝わっていないと感じています。新学習指導要領でも「社会に開かれた教育課程」を謳っているように、教員のよさをもっと発信していくべきだと思います。

また、先生方には自信をもってほしいと思います。子どもたちの主体性や意欲を引き出す自信があると答える教員が、他国に比べると、日本は少ないようです。子どもたちに自尊感情をもたせるには、まず自分自身が自信をもつことが大切です。そのためにも、働き方改革で生まれる余暇を十分に使って、視野を広げてほしいです。よい先生になって、よい教育をしてほしいと思います。



社会科同好会に期待すること

昭和3年から研究員制度が始まりました。ぜひ、過去に遡り、どのようなテーマが研究されたのかを見てほしいです。

現在、研究されているテーマは、教育方法に関わる研究が多く感じられます。過去の研究は、非常に骨太です。私は、平成3年の指導法部会で、過去の研究をまとめました。今の研究と過去の研究を比べてほしいと思います。ここ10年ほどは、指導法が中心になっています。研究は、研究授業でしか立証できるものだけではないと思います。教材論であっても良いと思います。

また、これからの学校の姿を見通した研究もあってよいと考えています。AIなどの先端技術のことも学び、知っていてほしいです。名古屋市は、先端技術を用いた教育への予算が少ないと思います。もっと、予算を増やすことができるように働き掛け、先生方がもっと広い視野から自分の研究を模索できるようにしていきたいと思います。

そのためには、他都市の実践を参考にしたり、大学の教授や外部の人材を招いて学んだりすることもしてほしいです。様々な考え方を取り入れるには、外から学ぶことがよいと思います。取り入れられるものは取り入れていくという、幅広い目が必要だと感じます。現場だけでなく、様々な場から学んだことを同好会に生かしていくという雰囲気をお願いいたします。

様々な考えに触れ、「何これ？」と思うことが大切です。これは、どういう考え方だろうと疑問をもつことで、考え方を広げるきっかけになります。私も大学院で学んだことが様々な考え方を知る転機になりました。みなさんも、様々な転機を生かしてチャレンジして進んでほしいです。学ぶ場を広げ、人との出会いを積極的に求めてほしいと思います。社会科は、人とつながる教科だからこそです。

11 月小学校部会報告

11月27日(水) 於 愛知県スポーツ会館

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教材開発を行い、実践した成果と課題を報告しました。「各学年の単元で目指す子どもの姿に、より多くの子どもが到達するためには」という視点で活発な意見交換が行われました。

意見交換を受けて、各学年の教材開発についての振り返りをまとめました。

3年生 地域や学級の実態に合わせて、資料を精選することが大事。しかし、「道具の変化」をどのように扱っていくのか、課題が残る。

4年生 外国人にとって、なぜ豊橋は住みやすいのか。外国人の生活上の困り感から追究して、住みやすさとは何かと考えながらまとめることが大切。

5年生 今回医療をテーマに学習を進めたが、情報ネットワークの良さを見いだした後、社会全体に広げて考える活動を行っていくことが大事。

6年生 もっと広い視野で政治参加を考えるには、名古屋市の税の使い道、福祉や地域活性化などにも着目させて、選択・判断させる学習活動もよい。

1月には、小中合同部会研究発表会で来年度に生かせるように実践を分かりやすく報告します。年度末には「あゆみ」が皆さんの手に届きます。今年度の実践が、来年度の実践に少しでも生かせるようにしていきます。

11 月中学校部会報告

11月27日(水) 於 富士中学校

中学校部会では各分野グループの2学期実践の報告と成果・課題の検討を行いました。

地理的分野グループからは、単元「統合を強めるヨーロッパの国々」の実践報告がありました。学習課題を工夫したことで生徒が興味をもてた点が成果として挙げられました。追究や討論をする場面で視点が五つあり、考えをまとめづらくなった点が課題として挙げられました。

歴史的分野グループからは、単元「武家政治の成立と封建制度」の実践報告がありました。マイクロディベートを活用して、個々が議論をすることで、主体的に課題解決しようとする態度を高められた点が成果として挙げられました。一つの学習課題に対して肯定・否定の両方の立場から吟味することができるように、考える時間を工夫する点が課題として挙げられました。

公民的分野グループからは、単元「人権と共生社会」の実践報告がありました。ゲストティーチャーとして弁護士を活用し、質問に答えてもらったことで、生徒の思考が整理されたことが成果として挙げられました。人権というキーワードを意識させることが不十分だった生徒がいたことが課題として挙げられました。

また、全中社研京都市大会の報告がありました。「社会科で育てる未来の創り手」というテーマで実践が行われ、見通す力を育む単元の開発がされていました。話合いの場面で、生徒がより活発に議論できるようにすることの重要性が指摘されました。令和4年度の全中社研名古屋大会に向けて、実践力を高めしていくことや、目指す研究理論の方向性を、確認し合いました。

第3回授業づくり講座の様子

10月17日(木) 於 ウィルあいち

「わくわく！子どもが目を輝かせる社会科の授業づくり」と題して、年間4回の「授業づくり講座」を開催しています。

10月17日(木)に、小学校は「2学期の授業に生かせる教材の活用法」、中学校は「学習課題に対する意欲を高める工夫」という内容で行いました。

【小学校】3・4年講師：下村 芳敬 先生(藤が丘小)

5・6年講師：山口 喬史 先生(如意小)

3・4年生では、「きょうどの学習」を基に「ワンページポートフォリオ」を活用した毎時間の振り返りの方法について説明されました。また、単元のまとめの際に活用できる思考ツールの紹介をされ、実際に取り組みました。

5・6年生では、ワークシートに書かれた年表や地図を使ってどのように授業を組み立てていくのか考えました。講師の先生からは、年表や地図を毎時間書き込んで整理していきながら、各時間の振り返りを行ったり、単元のまとめに活用したりする方法を紹介していただきました。

今回の授業づくり講座では、まとめや振り返りの方法について学習することができました。

【中学校】講師：関 真輔 先生(守山西中)

スライドを使いながら、授業の中で学習課題を追究する意欲を高めるために、資料提示や発問の工夫についての説明がありました。特に中国・四国地方の事例で、水位の上昇や下降が影響しているものを共通ポイントにした学習課題の提示の工夫があることを伝えました。

今後の授業づくり研修会の予定は、1ページに記載した通りです。ぜひご参加ください。



【小学校の講座の様子】



《参加者の声》

【小学校】

- 単元の前半部分の学習が後半に生かされないということがよくあったので、一枚のワークシートにまとめていくという方法がとてもいいなと思いました。また、歴史でも年表や地図を使うことでとても分かりやすくなるなと思いました。
- まとめをしていく上で、子どもたちにも教師にも目で見て分かるようにしていくことが大切だと思いました。今後の授業で取り入れていきたいと思います。

【中学校】

- 具体的な例を交えながら、自分でも考えて参加することができました。中国・四国地方に関先生が実際に行って撮っていた写真だったので、興味深かったです。
- 「討論型の学習課題」と「活動型の学習課題」があって、単元のまとまりで学習課題をつくることの大切さが分かりました。

授業力アップ研修グループの様子

6月より各グループで研修が始まりました。今回は、中学校グループの研修の様子をお伝えします。

【活動内容】

「テスト」をテーマに、これまで各自が作成したテストを持ち寄り、情報を共有し話し合いました。経験豊富な講師の先生方から、テスト作成のポイントやコツを教えてくださいました。参加した方からは、「技能や思考のテスト問題はどのようなものか」など、テスト作成に関わる質問が活発になされました。また、日頃の授業や学級経営など、参加者の悩みを話し合いました。



【参加者の声】

- 皆さんのテストを知る貴重な機会になりました。良いところを取り入れたいと思います。
- 日頃なかなかできない情報交換やリーダーの先生への相談で、よい刺激を受けました。
- 同じ単元でも作成者によっていろいろな問題があることが分かって、勉強になりました。
- 日々の授業について、アドバイスをいただいて、ためになりました。
- 観点ごとの問題について、知ることができてよかった。

今後も、授業力アップ研修グループの様子について、同好会ひろばで随時お知らせしていきたいと思っています。



今後の予定



1月14日（火）小中合同部会研究発表会 19:00～ 中小企業振興会館

1月24日（金）第4回授業づくり講座 19:00～ 愛知県スポーツ会館

「わくわく！子どもが目を輝かせる社会科の授業づくり」

2月7日（金）全体会 19:00～ 愛知県スポーツ会館